

学童の「弁当格差」に親たちの懸念 「令和の米騒動」が夏休みで「給食なし」の子どもたちを直撃



川区は所得制限を設けずに小中学生の子育て世帯に米を配布した。週に多く読まれた記事の「見逃し配信」です。ぜひ御覧ください（この記事は「AERA dot.」で2024年8月13日に配信した内容の再配信です。肩書や情報などは当時のまま）。

【写真】夏休みの食糧支援…コメ袋を手に、笑顔はじける子どもたち

* * *

食品の価格高騰が長期化し、子育て世帯の家計を直撃している。特に主食のコメは品薄で大きく値上がりし、「令和の米騒動」とい

われるほど。夏休み中の子どもたちには給食がない。子どもたちの食を支援しようと、自治体やNPO団体が食品の配布を開始した。

子ども4人、食事のたびに5合

8月5日、東京都品川区は「食の支援」を希望する子育て世帯に対して、子ども1人につき2キロの米の配布を区内25カ所の児童センターで始めた。「うちは子どもが4歳から10歳まで4人いるので、すごく助かります。お米は食事のたびに5合炊くので、あっという間になくなってしまいます。安いお店を探して買うんですが、今は品薄で困っていました。さっそく今晚から使わせていただきます」

品川区立八潮児童センターの職員から米を手渡された40代の主婦、崎山かおりさんは、こう語った。

職員は「きちんと朝ごはんを食べていますか」などと質問しながら、センターを訪れた保護者や子どもに米を渡していく。



同区子ども育成課の藤村信介課長はこう話した。

「支援が必要な家庭の早期発見につなげようと、児童センターに取りに来てもらうかたちにしました」

「さっそく今晚から使わせていただきます」と語る母親と子どもたち。

品川区は所得制限を設けずに小中学生の子育て世帯に米を配布した
＝東京都内、米倉昭仁撮影

所得制限を外した理由

森澤恭子区長は6月の定例会見で、小中学生がいる子育て世帯に所得制限なしで米を配布する方針を示した。区は、ひとり親家庭を中心に無料で食品の配送を行う「しあわせ食卓事業」を実施しているが、利用者に「もらって一番うれしいもの」を尋ねたところ、最も多かった回答が「米」だったという。

同区子育て応援課の飛田則文課長は語る。

「夏休み中、子育て世帯にとって大変なのは、『給食がない』こと。仕事をしている親が増えているなかで、毎日、子どもの昼食を用意しなければならない。区にも『夏休みが負担だ』というご家庭からの声がここ1、2年、寄せられるようになりました」

コメの配布を困窮世帯に限定しなかった背景には、「区長の強い思いがある」と、飛田さんは言う。

「所得制限を設けると、『もらえる人』『もらえない人』の間にいる『はざまの人』が出てしまう。ひとり親世帯だけでなく、共働き世帯で収入があるように見えても子育てで家計が大変な世帯もあります。そういう

家庭にも手を差し伸べられるようにしました」

配布対象は区内に住む小中学生約3万人の家庭。7月中旬から申請の受け付けを開始し、8月5日の締め切りまでに想定の5000人を大幅に超える1万1129人の子もたちの家庭から応募があった。当初、区は補正予算でコメ10トンの購入費として、約830万円を計上した。しかし、それだけでは足りなくなったので予備費を使い、追加で米を購入するという。

夏休み食糧支援、今年はコメを増量

認定NPO法人キッズドアはコロナ禍の始まった2020年から、ひとり親家庭と多子世帯向けに「夏休み緊急食料支援」を行っている。今夏は、過去最多の2921世帯から申し込みがあった。

7月下旬、千葉県船橋市の倉庫を訪れると、同NPOの職員と運送業者の社員約10人が食品の梱包作業に汗を流していた。キッズドアで「ファミリーサポート」を担当する渥美未零さんは言う。

「昨年は冷凍品と常温品を送りましたが、冷凍品は別に発送しなければならず、輸送資材や送料がかさむ。今年は常温品だけにしてコストを削り、食品の量を増やしました」

コメの量も今回、4キロから5キロに増やした。渥美さんは精米したてのコメの詰まった袋を見せてくれた。「いくつかの食品会社と交渉し、価格を抑え、苦労して3000袋近い数を確保しました」（渥美さん、以下同）

コメのほかにも、麺類、パスタソース、レトルトのカレー、コーンフレーク、ホットケーキミックス粉、菓子もある。食品と輸送資材、梱包費、送料を合わせて、1世帯当たり約8000円という資金はクラウドファンディングでまかなっている。企業から寄付された食品も一緒に送る。

「ホットケーキミックスはお子さんたちからとても喜ばれます。卵や牛乳が必要ですが、親子で一緒に作って、夏休みの思い出になったらいいな、とか。そういう思い入れはどの食品にもあります」



夏休みの短縮や廃止を望む声

ファミリーサポートには、約3900世帯（8月1日現在）が登録している。5～6月に実施したアンケート（回答数1821件）によると、登録世帯は母子世帯が90%、世帯所得が200万円未満は54%だった。

「家計が昨年より非常に厳しくなった、と回答した世帯が約8割もいました。物価の高騰が続いているのに、収入は増えていないところが多いですから」

夏休みについて尋ねると、小中学生のいる世帯の13%が「なくてよい」、47%が「今より短いほうがよい」と回答した。その回答者が夏休みの短縮や廃止を望む理由（複数回答）は、「子どもが家にいることで生活費がかかる」（78%）、**「給食がなく、子どもの昼食を準備する手間や時間がかかる」**（76%）、**「子どもに夏休みの特別な体験をさせる経済的な余裕がない」**（74%）、**「給食がなく、子どもが必要な栄養をとれない」**（68%）などだ。

夏休み明けが「怖い」

渥美さんが聞き取り調査を行ったところ、保護者たちは「夏休み明けがとても怖い」と訴えたという。

「1、2年前まで、電気代節約のためにエアコンをつけない家庭があったと聞いていますが、この酷暑は命の危険を感じるほど。エアコンをつけざるを得ず、夏休み明けに電気料金の請求書が届くのが怖い、という方が多かった」 子どもが味わうだろう「体験格差」にも不安を感じているという。

「夏休み明け、友だちから『旅行に行った』『テーマパークが楽しかった』という話を聞いて、子どもが『格差』を感じることを心配しているようです。夏休み中、子どもをどこにも連れて行ってあげられない、と悩んでいる」



「弁当格差」で塩にぎり

「保護者自身の健康も心配」と渥美さんは言う。子どもたちを優先し、自分が十分な食事をとっていない親は非常に多く、「ほとんど皆さんそう」だという。

そんな保護者にとって、子どもたちの「弁当」も負担になっているという。

夏休み中も放課後児童クラブ（学童）は開いているが、こども家庭庁によると、ほとんどの学童では「給食」はない。そのため、弁当を用意する必要がある。

「お母さん方から、『弁当格差』という話をよく聞きます。隣の子のお弁当がすごく見栄えがいい。さらに、『なんで、お弁当にソーセージが入っていないの』などと心ないことを言われて、傷ついてしまう。そうならないように、子どものお弁当を最優先にして少しでも彩り豊かに作って、自分は『塩にぎり』だけという方が本当に多い。

1日2食もザラです」

前出のアンケートでは、1カ月の食費は、2人家庭で「2～3万円」が34%で最も多かった。

自由記述欄には、こんな言葉が書かれていた。

「食料が高くて買えないのが一番情けないです。育ち盛りなので、たくさん食べさせてあげたい」

（AERA dot. 編集部・米倉昭仁）



（AERA dot. 編集部・米倉昭仁）2024/8/21/ 08:00（AERA digitalより一部抜粋）